

安川電機 2024 年度 第 3 四半期累計期間 決算オンライン説明会 質疑応答（サマリー）  
（2025 年 1 月 10 日（金））

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

上席執行役員 コーポレートブランディング本部長 林田 歩

（注記）：

モーションコントロール：モーションコントロールセグメント

AC サーボ：AC サーボ・コントローラ事業（モーションコントロールセグメント）

インバータ：インバータ事業（モーションコントロールセグメント）

ロボット：ロボットセグメント

システムエンジニアリング：システムエンジニアリングセグメント

その他：その他セグメント

Q 前回(24 年度 2Q)の決算説明会では、通期計画を達成するためには 3 Q 受注が 1,400 億円くらい必要とのことだったが実績は下振れており、通期計画の下方修正があったもののその達成はかなり厳しく見える。どのように計画を達成するか？

A 韓国半導体関連の投資が止まり、米大統領選挙の影響でアメリカも 11 月いっぱい設備投資に動きがみられなかったことから、3 Q の受注が想定より弱かった。一方、製品の短納期対応が浸透し長納期発注がなくなったため、モーションコントロールにおける長納期の受注残が 2 Q 末時点と比較し 3 Q 末時点では約 80 億円減少した。これを仮に足し戻すとモーションコントロールの 3 Q 受注は QoQ でプラスとなっており決して悪い状況ではない。ロボットは、3 Q 受注に想定していた欧州と中国の案件が 4 Q にずれた。実際は、受注よりも売上が実需を反映しており、3 Q 売上については、韓国や米国が想定よりも弱いものの、全体的には想定から大きくは外れていない。4 Q の計画は、前回、決算発表時点で見直したのから大きく変えていない。韓国の半導体の低調さを補う形で、日本の半導体や電子部品の需要が立ち上がってきており、4 Q は期待できる。また、中国の 3 C 向けや大統領選後の米国で、12 月からオイルガス向けや太陽光パワーコンディショナも動き出している。これらに加えて 4 Q では、モーションコントロールの納期経過後の受注残 80 億円が引き取り交渉中にあり、そのうち 40 億円程度は 4 Q 売上に上乗せできると見ている。また、短納期の受注も入り始めており、特に日本の半導体・電子部品関係の 4 Q 受注は即売上に反映してくることが期待できる。

Q 前回の決算発表時に見直した 4Q 計画を据え置いたということだが、これは 3 Q で社内想定に届かなかった分を引いて 24 年度 4 Q 自体の計画は変えていないということか？

A その通りだ。3 Q から 4 Q のモーションコントロールの売上増分は約 95 億円。うち、半導体・電子部品関係の立ち上がりで約 30 億円、アメリカにて約 20 億円、受注残の過去納期の出荷保留分の売上計上で約 40 億円の増加を見込んでいる。ロボットは受注残からの展開によって約 85 億円の売上増を見込んでいる。大口案件の売上があり、この増加は見えている。これらによって韓国の半導体関連が弱くなった部分を穴埋めすることで、前回の決算発表時の 4Q 想定を据え置いている。

Q 25年度は現中期経営計画“Realize 25”（以降、中計）の最後の年になるが、営業利益 1,000 億円の目標達成は厳しいと感じる。このような状況下で、こだわる部分はどこになるか。

A まずは25年度の発射台となる今期(24年度)をきちんと仕上げたい。中計に掲げたボリュームの達成は確かに厳しいが、現在、強く抑制をしている固定費の水準を維持していくことに加え、限界利益率のさらなる改善に取組み、質を高める運営を確実に行う。仮に25年度の売上が24年度より500億円ほど上積み出来れば、そのうち約50%は限界利益として増加する。いかに経費を増やさずにオペレーション出来るかが課題だが、これが実現できれば営業利益率目標の15%は達成可能である。利益率に強くこだわっていきたい。

Q 資本効率についての考え方や設備投資計画について、今中計期間で見直す可能性は？

A 計画している設備投資は、量を増やす投資ではなく、付加価値の取り込みや生産性改善、そして、生産拠点の再編によるオペレーションの効率化を目的とした投資であるため、計画通りに実行する。一方で、今期も実施した政策保有株の売却や、過去、戦略的に投資した企業の株式のキャッシュ化については、今後も積極的に取組み、それによって得たキャッシュを株主の皆さまに還元していく。キャッシュリッチを目指すのではなく、現状のレバレッジを維持しつつ、余剰分は還元していく方針だ。

Q 米国の市況について、セグメントごとに教えてほしい。

A ACサーボは半導体関連が回復傾向にある。インバータにおいては、様子見だったオイルガスや太陽光発電用パワーコンディショナ関連の投資も動き出してきた。ロボットについても、一般産業市場において12月から自動化投資が再開してきた。全体的な景気も悪くなく、順調な市場だと考えている。

Q ACサーボの需要動向に変化はあるか？

A 韓国の半導体関連の設備投資における見送りの影響で、一時的な調整が発生しているものの、日本と台湾は好調を維持している。米国では、製品の短納期化が影響し3Q受注は想定以下だったが、足元で半導体関連のお客さまは、将来を見越した積極的な投資を計画しており、4Q以降での回復が期待できる。

Q 中国における受注の状況は？

A 全体的には、昨年度上期にロボットの大口案件の売上があったため、3Q累計の売上は前年同期比でマイナスになっている。受注も若干マイナスだが、12月にはかなり立ち上がっており、12月まで含めた累計で見ると、前年同期比でプラスとなっている。セグメント別では、ACサーボの受注は、昨年度上期に発生した太陽光関連の大口受注が今期はないものの、従来は春節前まで徐々に受注が減少する季節性があったが、今年は横ばいで推移している。インバータも真空ポンプ関連など新規案件が獲得できている。ロボットについても、受注は前年同期比でプラスだ。ガソリン車に注力するローカルメーカーが積極的な投資を継続しており、関連するプロジェクトを受注している。一般産業も政府の設備更新奨励策の影響で堅調だ。また、グローバル展開を目指すお客さまにおいて、輸出向けの製品を製造するために、安全規格に対応した設備需要が高まっている。そういった設備に対応できる製品はローカルメーカーからの調達が難しく、当社に引合いが来ることも多い。中国における製造業の高度化が、当社の中国ビジネスを後押ししている。

Q NVIDIA との連携など、御社の AI 関連ビジネスには期待が大きい。今後の展望は？

A MOTOMAN NEXT の訴求において、AI は必須の技術。NVIDIA の GPU と当社独自の AI を融合し、医療系を含む各業界のトップメーカーとのプロジェクトを現在二十数件進めている。お客さまからの評価も高い。MOTOMAN NEXT は、当社独自の AI である Alliom、そして、YRM コントローラも合わせて i<sup>3</sup>-Mechatronics コンセプトを実現するキーコンポーネントであり、当面は台数ではなく事例を増やすことで、エンドマーケットを広げることを第一に考え行動している。

Q 24 年度通期見通しにおける営業利益増減益分析における売上減少による利益減少影響△181 億円は、中間決算時の通期見通しの△120 億円に比べ 60 億円程度悪化している。その一方、売上収益の見通しについては、50 億円減少しているが、売上収益の減少幅以上に営業利益が目減りしている理由を教えてください。

A 3Q において、為替レートが中間決算時に想定したレートより円安に推移したことと、4Q 想定為替レートを見直したこともあり、今回発表の 24 年度通期計画における売上収益が 80 億円程度かさ上げされている。また、為替影響を除いた売上収益の減少分が約△130 億円となるため、これに限界利益率を乗じた△60 億円強が営業利益における減少分となる。

Q 3Q 受注の 1,205 億円は、9 月の急激な円高影響を踏まえると、為替による目減りはどの程度か？ また、4Q の受注水準は、どの程度を見込んでいるか？

A 2Q から 3Q の為替影響は若干円高方向で、売上収益には 30 億円程度の影響があった。受注についても同規模と考える。モーションコントロールの 4Q の受注水準は、12 月の状況から判断し、日本ではサーボ、アメリカではインバータが回復してきている。加えて 3Q は長納期受注の一時的な調整が 80 億円あったがこれが正常化される分、上振れする。4Q ロボットは米国が好調だ。それに加えて、中国と欧州の大口案件が 3Q から 4Q に期ずれした分、上振れる想定である。

Q 村上専務が 25 年 3 月から中国統括になるが、心構えや達成したい目標などを聞かせて欲しい。

A 経営企画の経験が長く、2000 年代後半から中国の投資案件を多く手掛けてきた。その経験を生かし、中国企業トップとの交流や人脈を活用したトップセールスを行いたい。中国は市場に関係なく強い企業が多く、彼らはグローバル企業になりつつある。安川のグローバルサポート体制で中国企業のグローバル展開を支援し、将来のグローバル企業との強固な関係を構築したい。また、これまでの中国事業は市場が伸びることが前提だったが、環境が大きく変化してきており、経営体制の見直しも必要となる。シンプルで、ボリュームが伸びなくても利益が出せる強い構造を作っていきたい。

以上